

2 0 1 9 年 度
(平成31年度・令和元年度)
事 業 報 告 書

社会福祉法人 上田明照会

目 次

ページ

1～6	法 人
7～8	甘露保育園
9～11	蓮の音こども園
12～13	ともいき宝池慈光
14～15	ともいき宝池和順
16～17	ともいきライフ月影
18～19	ともいきライフ住吉
20～22	上田市母子寮
23～24	上田明照会グループホーム
25～26	相談支援センター ほっと

2019年度 社会福祉法人 上田明照会 事業報告書

1. 理事会・評議員会等の開催状況

	開催年月日	出席人数	決議事項
理 事 会	I 令和元年5月24日	理事6名 監事2名	①平成30年度事業報告について ②平成30年度決算報告について ③平成30年度監査報告について ④役員の改選について ⑤定時評議員会の開催について ⑥会長の職務執行状況の報告について
	II 令和元年6月11日	理事6名 監事2名	①理事及び監事の就任の承諾について ②理事長（会長）の選出について
	III 令和元年11月5日	理事6名 監事2名	①2109年度(令和元年度)第一次補正予算について ②給与規則施行細則等の変更について ③評議員会の開催について
	IV 令和2年3月16日 【書面決議】	理事6名 監事2名	①評議員会の招集事項について ②2019年度(令和元年度)第二次補正予算について ③令和2年度事業計画について ④令和2年度当初予算について ⑤給与規則施行細則の変更について ⑥運営規程の変更について
評 議 員 会	I 令和元年6月11日 【定時評議員会】	評議員7名 理事6名 監事2名	①平成30年度事業報告について ②平成30年度決算報告について ③平成30年度監査報告について ④役員の改選について
	II 令和元年11月14日	評議員7名 理事6名 監事2名	①2109年度(令和元年度)第一次補正予算について ②給与規則施行細則等の変更について
	III 令和2年3月24日 【書面決議】	評議員7名 理事6名 監事2名	①2019年度(令和元年度)第二次補正予算について ②令和2年度事業計画について ③令和2年度当初予算について ④給与規則施行細則の変更について ⑤運営規程の変更について

[監事監査] 令和元年5月23日 平成30年度 監査実施

新型コロナウイルス感染症の対策について令和2年2月25日付で基本方針が示されたことにより、3月に開催予定としていた理事会及び評議員会を書面決議とすることを会長が決定した。

2. 評議員及び役員の選任・任期満了等について

令和元年6月11日付で定時評議員会により役員の改選が承認され、全役員が再任となった。

2019年度 法人重点項目の取り組みについて（報告）

① 全事業所の自己評価及び第三者評価を実施する

今年度は、法人事業所の中で4事業所（甘露保育園・上田市母子寮・ともいきライフ月影・ともいき宝池和順）の第三者評価をしなの福祉教育総研を評価機関として受審した。各事業所で評価機関の担当者より、事業所の見学から始まり、利用者及び職員への聴き取り等の様々な評価項目にあわせて回答した。評価内容を基に、評価機関との調整・法人内での調整を実施した。受審した事業所の評価結果についてはワムネットへ掲載される予定。

次年度は、引き続き3事業所（ともいき宝池慈光・ともいきライフ住吉・上田明照会グループホーム）の第三者評価受審を予定している。

蓮の音こども園に関しては、評価機関の選定も視野に入れ令和3年度以降に第三者評価を受審することとする。

② 人材確保の対策について

介護事業及び福祉事業関係の人材確保が年々難しくなっているのが現実である。上田明照会においても人材の確保は非常に大きな課題となってきた。そのため、今年度は人材確保対策として積極的に説明会への参加及びマイナビ等の就職情報サイトを導入した。

◎ハローワークや大学が主催となる就職説明会への参加。（10月23日、11月8日）

◎長野県知的障がい福祉協会主催のJOBマッチングフェアへの参加。（7月7日）
→参加者1名が入職となる。

◎実習生の積極的かついいねいな受け入れの実施。

→保育所養成校実習より2名が、長野大学相談援助実習より1名が入職となる。

◎マイナビ(就職・採用情報サイト)の導入。（7月30日～3月31日）

→エントリーされた学生より1名が入職となる。

人材確保対策とともに働きやすい職場作りや離職者の減少を図るため管理者との面談を随時実施した。

また、人材育成として研修委員会を中心に下記の職員研修を実施した。

①新任職員研修

⑦メンタルヘルス研修

②前年度新任フォロー研修

⑧虐待防止研修

③リーダー主任職員研修

⑨虐待防止伝達研修

④事例検討会

⑩救急救命講習

⑤接遇マナー研修

⑪他法人との合同研修会

⑥応用行動分析研修

③ 法人理念・運営方針及び各事業所の重点項目について、より円滑に取り組むために各会議、委員会を組織し実行する。

◎会議・・・各会議は年間計画に基づき実施した。

①法人経営会議

②法人管理者会議

経営会議では、上田明照会の経営状況や各事業所の様子や食事業務委託業者の選定、人材に対する確保状況などが話し合われた。

管理者会では、各事業所より利用児者の利用状況等の報告や各委員会での報告がなされた。今後、管理者会では各事業所の運営状況や新規利用者の開拓などより深い議論が望まれる。

◎委員会・・・各委員会は年間計画に基づき実施した。

①人材育成・研修委員会

②業務管理・第三者自己評価委員会

③サービス管理委員会

④要望・リスク・事故防止管理委員会

⑤保健管理・食事サービス委員会

⑥広報・情報管理委員会

⑦上田ともいき処委員会

今後、上田明照会の具体的な方向性及びグランドデザインを中長期計画として経営会議・管理者会を中心に検討していく。

④ 法人としての公益的取り組みと地域福祉の貢献

◎2019年度の活動方針

「地域における公益的な取り組みについて、さらに充実した取り組みをする。」

上田明照会の設立理念・精神に学びつつ、地域の福祉課題のうち「貧困に関連する課題」について、法人が有する専門的知識や機能を有機的に連携して取り組み、相談・支援を通して貢献する。

◎上田ともいき処としての活動内容

①「ともいき生活相談室」

生活全般の相談を通じて、被相談者が個別に抱える生活上の悩みや課題を傾聴しつつ、その課題を整理しながら改善または軽減するために必要な助言、状況によっては自立支援プログラムを用意し、関係機関と連携して具体的な支援を提供する。

この3年間の状況では、いわゆる「緊急生活レスキュー」としての支援（寝場所なし、所持金なし、保険証なし等の方の緊急受入）が3件あった。行政の支援を待っている間に合わない事例を対象とし、その日から支援を開始するものであり、関係機関と連携して行い、概ね半年以内で就労しアパートでの自立に至った。

その他、旧見警察利用者の相談・助言があり、毎週1回の定期面談を継続して実施した。

②「こどもカフェ・英師館」（子どもの居場所づくり・無料学習塾・こども食堂）

子どもの貧困関連の支援として実施している「こどもカフェ」活動は4年目に入り、7人に1人が相対的貧困状態にある状況の中で、学習支援や食事支援は小さな取り組みであるが、大きな意義がある。毎週木曜日に実施してきた「こども食堂」は、今年度は毎月第3土曜日の実施とし、ひとり親世帯（上田市母子寮利用世帯、同施設退所世帯等）を中心に受け入れてきた。

○こどもカフェ実施回数及び参加人数（毎週火曜日 無料学習支援とおにぎりの提供）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施回数	3	4	4	5	3	4	4	4	4	3	3		41
子ども	23	43	49	67	32	59	48	52	44	31	35		483
ボランティア	6	5	6	6	4	4	3	2	2		1		39
見学者				2			1						3
参加人数計	29	48	55	75	36	63	52	54	46	31	36	0	525

利用状況 : 北小学校の生徒が学校帰りに寄る形での利用が主で、スペース的に狭く感じるほど、来館児が多かった。

ボランティア : 上田高校生・信州大学教育学部生

関連活動 : 信州こどもカフェ上田地域プラットフォームの世話人として会議に数回出席した。

○こども食堂参加人数（毎月第3土曜日 食事の提供）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
子ども	9	12	10	8	6	5	4	6	10	9	8		87
保護者	3	2	2	3	2	2	2	4	5	4	4		33
スタッフ	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4		43
ボランティア	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
参加人数計	17	19	17	16	13	12	11	15	19	18	17	0	174

利用状況 : ひとり親世帯を対象に、主に上田市母子寮利用者と同施設を退所して上田市内で生活している世帯及び旧見警察退所の子どもや保護者が利用した。

ボランティア : 法人の非常勤職員が毎回ボランティアとして活動を支えてくれた。

関連活動 : 上田西ロータリークラブから寄付金をいただいたほか、食材の寄付もいただき、活動に役立てることができた。

③ 「気まぐれ屋」

「利用者の活躍できる場」をテーマにスタートして5年目に入った。新田施設（ともいき宝池慈光・ともいき宝池和順）の利用者さんの「活躍できる場づくり」を目標に、それぞれの支援メニューとして支援の個別化を展開してきた。

ともいき宝池慈光の振り返りとしては・・・

- 出来ることが増え、生活の拡がりを持てた。
- 接客・物作り等を通し、励みになっている。
- 役にたてることで、自信につながっている。
- 個別で、その人に合った、そこでしかできない支援を提供できた。
- カラコ織り体験ができて良かった。
- 穏やかに過ごせる場所で、じっくりと集中した活動ができた。

ともいき宝池和順の振り返りとしては・・・

- 出来ることが増え、生活の拡がりを持てた。
- 販売会やカフェ店頭販売で実際に商品が売れていくことがわかり、励みになった。
- 少人数でゆったりとした環境の中でそれぞれのペースで活動できてよかった。
- 大星ボランティアとの手芸活動の場として活用できた。
- 折り機の寄付、糸張りの指導をしていただき助かった。

課題としては・・・

- 実施体制や内容の工夫をさらに進めていく。
 - 今後も「拠り所」として活用していく。
 - 様々な職員が関わったり、担当との個別支援ができる場としても活用できた。
 - 住吉・月影の利用者にも利用してほしい。
 - 利用者・家族が気軽に利用できるようにしたい。
 - 実施体制や内容の工夫をさらに進めていく。
 - カラコ織りを継続し、他の活動として慈光和順の共同作業も考えたい。
 - 上田明照会のアンテナショップ・地域交流の場としてスタートしているので、地域の方との交流を深めたい。
- などがあげられ、「利用者が活躍できる場」づくりとして、大きな成果をみせている。

④ 「震災避難者等支援室」

2011年3月の東日本大震災直後の支援活動を機にスタートした上田ともいき処の活動は9年目に入り現在の「法人としての公益的取り組み」のきっかけにもなった。当初の生活用品や食品の提供などの活動から、当事者グループ活動の支援やデトックスのための「保養滞在」受け入れ支援に変わってきた。

1) 主な活動

月日	内 容	参加		場 所	主 催
		世帯	人数		
4/25	第1回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会			旧市民会館第1会議室	実行委員会
7/6	避難・移住者交流会	5	17	上田明照会交流サロン	上田ともいき処 他
7/24	第2回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会			上田市役所	実行委員会
8/5	第32回信州上田花火大会	8	29	千曲川河川敷	実行委員会 他
	ふれあいバスツアー ※台風19号の影響で中止				
12/15	クリスマス交流会	5	14	別所温泉あいそめの湯	実行委員会 他
1/	新年会・おもちつき	※新型コロナウイルス感染症の影響で中止			
1/	第3回上田市東日本大震災避難者支援実行委員会				
2/	スノーレクリエーション				

2) 保養滞在の受け入れ

受け入れ世帯	実人数	延べ人数	受け入れ拠点
6世帯	21人	111人	大久保ハウス

⑤「フードドライブ」（余剰食品・食料を集め、必要な人に届ける活動）

主催のNPO法人フードドライブ信州（長野市）と連携し、共催で上田ともいき処としての活動が4年目に入り、上田市・上田市社会福祉協議会・労福協ながの・東御市・東御市社会福祉協議会・NPO法人ワーカーズコーポと連携して毎月第1土曜日を基本に上田市の「ひとまちげんき健康プラザうえだ」で開催してきた。

集まった食品を分類（種類・賞味期限等）、交流サロンにて保管・管理をし、相談機関（行政・社協等）を経由して必要な人に個別配布するとともに、上田ともいき処としても直接配布した。また、福祉施設（グループホーム等）や「こども食堂」を行っている団体に提供した。

1) スタッフ・応援団体

上田ともいき処	6名	上田市社協	1名
フードバンク信州	1名	東御市社協	1名
上田市	2名	ワーカーズC	1名
上小労福協	1名		

2) 他団体等のフードドライブ

団体名	実施日	寄贈数
上田商工会 女性部	8/19	162
上田地域振興局	8/23	42
てととと市	10/19	56
上田商工会 女性部	12/11	287

3) フードドライブ寄贈データ（上段：個数 下段：kg）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
	米	缶詰 瓶	レトルト	インスタ タント	菓子	飲物	調味料	粉類	乾物等	合計
4月	10	50	39	320	27	41	263	3	17	770
	2,504.0	7.6	7.8	37.7	2.2	6.7	172.9	11.0	0.5	2,750.4
5月	5	48	49	46	40	37	12	1	6	244
	47.0	8.7	11.2	9.4	5.5	5.7	2.7	0.0	0.3	90.5
6月	1	27	351	55	25	51	206	0	5	721
	15.0	4.3	67.5	10.4	6.3	10.7	41.9	0.0	0.3	156.4
7月	9	43	49	101	29	30	31	4	21	317
	155.0	5.2	8.9	18.7	3.1	5.8	12.9	2.0	0.7	212.3
8月	12	48	67	47	64	161	25	0	47	471
	75.0	11.2	8.5	11.8	6.9	24.3	6.2	0.0	0.7	144.6
9月	8	111	43	131	94	53	51	1	35	527
	139.0	24.8	11.9	60.6	11.1	14.1	10.7	0.0	1.0	273.2
10月	24	99	43	95	45	27	33	3	18	387
	496.0	16.7	6.3	21.1	6.8	4.3	9.8	0.0	0.7	561.7
11月	10	44	68	147	22	295	203	10	18	817
	242.0	8.4	15.2	24.6	3.5	71.5	187.1	2.0	0.4	554.7
12月	29	126	201	499	99	354	48	5	13	1,374
	657.0	19.7	22.3	55.2	10.5	121.6	20.8	2.0	0.6	909.7
1月	14	125	84	156	66	360	108	3	33	949
	232.0	19.5	18.2	24.4	7.9	87.6	33.1	1.0	1.4	425.1
2月	12	33	215	72	22	1,430	32	3	32	1,851
	173.0	5.5	22.4	13.3	1.8	696.4	7.6	1.0	1.3	922.3
3月	2	8	19	301	620	40	130	0	8	1,128
	22.0	0.8	3.6	25.2	423.6	7.2	93.4	0.0	0.2	576.0
合計	136	762	1,228	1,970	1,153	2,879	1,142	33	253	9,556
	4,757.0	132.4	203.8	312.4	489.2	1,055.9	599.1	19.0	8.1	7,576.9

4) 出庫データ

支援別配布先	個数	重量	支援別配布先	個数	重量	支援別配布先	個数	重量
ひとり親支援	2,584	1345.8	相談支援機関	3,614	1501.6	廃棄等	17	51.7
1人暮らし	299	141.0	こども食堂	1,755	1308.3	※廃棄は米の虫等		
グループホーム	780	476.0	福祉施設	1,118	712.6	計	10,167	5537.0

今年度を振り返って

フードドライブの活動は上田地域を拠点としてしっかり定着してきた。特に、行政や社協等の団体と連携し、上田市の広報に毎月予定を掲載され、上田明照会・ともいき処の名前が拡がりをみせてきていることは、法人の地域における公益的な取り組みの周知につながっている。

物資の配布については、主に上田市社会福祉協議会と東御市社会福祉協議会の相談機関である「まいさぼ」を通じて支援の必要な方々に届く仕組みがあり、今後も継続してこの活動を推進して充実させたい。

震災支援室の活動は東日本大震災から9年が経過し、10年を節目に縮小を図りつつ、上田地域で暮らしている避難者（移住者）に対する相談機能と当事者グループ活動の側面的支援にシフトしていくこととし、保養滞在の受け入れは次年度を最終とする方向で検討したい。

◎相談機関・機能としての活動内容

①心の相談室「ハート」

心理療法等の実施件数 (上田市母子寮分再掲)

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法	個別療法	8	8	10	6	5	4	7	5	5	2	5	3	68
	SST(個別・Gr)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	5
生活場面面接		6	5	3	10	3	8	5	6	8	3	6	16	79
心理検査		0	6	0	1	0	1	4	0	1	1	0	0	14
施設職員等への助言		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	47
処遇検討会議への出席		1	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	1	10
その他・学習支援等		1	0	1	1	0	0	0	16	9	5	6	2	41
計		20	23	18	23	13	17	22	33	28	20	21	26	264
他機関への紹介・情報提供		2	2	1	1	0	2	2	1	0	0	0	0	11

(外来部門)

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法		3	2	3	2	2	3	1	1	1	3	3	3	27
検査・その他		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
他機関への紹介・情報提供		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
法人内コンサルテーション		2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	3	6	26
計		5	4	6	6	4	5	2	3	2	4	7	10	58

- 1) 心理療法：1ケース継続している(中学生)。その他の単発での相談があった。
- 2) 心理検査：2ケースあり、どちらも上田市母子寮の退所児童発達検査(WISC-4)で、それぞれ学校・保護者からの依頼であった。
- 3) 情報提供：上記の心理検査に応じた報告を情報提供したものである。

(その他法人内)

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法・面談		2	6	3	4	3	4	5	2	2	2	4	5	42
K式発達検査		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
WISC-4		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他機関への紹介・情報提供		1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
法人内コンサルテーション		4	3	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	12
計		10	11	4	5	4	4	5	2	2	3	5	8	63

- 1) 心理療法・面談：継続ケースはともいき宝池和順の利用者・保護者の2件、その他は検査の結果説明。
- 2) 心理検査：甘露保育園、蓮の音こども園からの依頼で実施。
- 3) 情報提供：上記の心理検査に応じた報告を情報提供したものである。
- 4) 職員面談：今年度は1～5件内であった。
- 5) 専門研修：応用行動分析の研修会2回と継続研修(コンサルテーション)を実施した。
- 6) その他：ハート通信の定期発行6回、臨時発行1回を行った。上田市の乳幼児健診、育児相談に月1回従事した。

[まとめ]

ニーズや要望に応える時間の捻出が課題になっているが、今後できるだけ依頼に対応できるように努める。

- ② 発達・育児相談室「ロータス」は蓮の音こども園事業報告に記載。
- ③ 相談支援センター「ほっと」はほっと事業報告書に記載。

2019年度 甘露保育園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 90名

《職員》 園長 主査 主任 保育士 看護師 栄養士 調理員等

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

月	開園日数	在籍園児数				合計
		4歳以上児	3歳児	3歳未満児	0歳児	
4	24	37	33	30	4	104
5	22	37	32	30	5	104
6	25	37	32	30	7	106
7	26	37	32	29	9	107
8	22	37	32	29	12	110
9	23	37	31	29	12	109
10	25	37	31	29	12	109
11	24	37	30	29	12	108
12	24	38	30	29	12	109
1	23	38	30	29	13	110
2	23	38	29	29	14	110
3	25	38	29	29	14	110
計	286	448	371	351	126	1,296

市町村別内訳 上田市 1,296人

3. 年間行事等実施状況

月	内 容
4	入園式・家庭訪問・花見散歩
5	花まつり・親子遠足(小諸懐古園)・上田仏教会花まつり(年長) ともいきライブ住吉とのさつま芋苗植え交流(年長)
6	交通安全教室・プール開き・保護者会作業・みそづくり体験
7	七夕まつり・アクアプラザ水遊び(年長)・夏まつり 地域交流事業(ピアノ・バイオリン・琴・うたのコンサート)
8	魂まつり・1期終業式・プール参観(幼児組)・保育参観試食会(2歳児)
9	祖父母参観・運動会
10	秋の遠足(信州国際音楽村・マルチメディアセンター・上田城址公園・関観光農園) 七五三・ともいきライブ住吉とのさつま芋掘り交流(年中・年長)
11	保育参観(幼児組)・感謝訪問(勤労感謝) 子育て応援講演会(和みのヨガ・朗読ワークショップ)・住吉との交流会
12	成道会・成道会お祝い発表会・防犯訓練・もちつき会・クリスマス会 個別懇談会(年長)・2期終業式
1	ものづくり・どんど焼き・個別懇談会(幼児組・0、1歳児)・保育参観(中止)
2	豆まき会・涅槃会・懇談会(2歳児)・新入児連絡会
3	ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

※9月～12月・・・保育参加(希望の保護者46名参加あり)

4. 職員研修

県及び市保育園連盟主催、私立保育園協会主催各種研修会
法人内研修会

5. 施設整備

幼児用プールの増設

6. 援助結果及び課題

① 保育

I 子どもの遊びが発展する環境づくり

子ども自身が自ら選んで、考え、試せる環境をどのように用意し、子どもの主体性をいかに保障していくかについては、ここ数年間の中で研修や視察研修を通じて、保育が転換すべき時期を迎えている事を、多くの保育者が認識している。しかしながら当園ではその途上にあり、これまでの習慣を保護者は歓迎するムードもあり、行事の準備に日々の保育内容が影響を受ける、あるいはおおよそは分かるが具体的なノウハウが分からず、慣例に従いがちの保育になる等、現場には多くの葛藤がある。職員個々の共有しきれていない領域について丁寧に分析し、目の前の日常から保育の質を高めていく努力の先に、子どもの主体性を尊重する姿が見通せていけると良い。

II インクルーシブ保育

集団適応が難しく、集団に大きく影響を及ぼす状況が数ヶ月続く事例もあった。当該園児の保護者、周辺（特に同クラス）の保護者双方に対して状況説明と方針の提示と合意が必要であった。現場目線で気になるお子さんは全体の1割強程度に及ぶが、定期的に情報共有する機会を設け、園全体の話題として捉えあってきた。保育園機能の中で、特別な配慮を必要とする園児の保育については、混乱期から安定期に推移する状況をイメージしながら、個別性の原則の抑えた上に、保育集団の一定枠内で過ごせるよう環境を整えていく必要がある。年単位ではなく段階を踏む支援の継続が、確かな成長に繋がる実践事例が保育者の自信に繋がる事例もあった。

② 家族支援

今年度初めて第三者評価受審の機会を得た。その中で「保護者が職員に相談しやすい、意見を述べやすい」という設問に対し、「保育者による対応の偏りがあり不平等感を感じた」という意見があった。園としては保護者の心情を推し量り、保護者は日常の保育者の言動等から子どもの理解の深さを感じ、園の方針に対する一貫性の有無を敏感に感じとり気付いている。園が保護者との連携を深めるためには、保育者一人ひとりの保育実践を向上させ保護者の理解と協力を得ながら、信頼関係構築に努める必要がある。今年度、46名の保護者の参加があった「保育参加」の機会を通じた交流は双方の理解促進には大変効果があった。

③ 食育

食育には様々な切り口がある。日常的には当日の献立に入る食材の展示を通して、色・形・大きさ・重み・においを感じ、食事として提供される食材とは違う側面に触れ子ども自身が新鮮な感覚を得ていた。給食では作ってみようの日や希望献立なども取り入れ、自分自身でチャレンジし、話し合いながら進める喜びにつながった。畑作りではそれぞれの年齢や興味関心、理解の度合いにより取り組んできた内容に違いがあるが、それぞれに収穫という目標の達成に至った喜びや、一方で動物被害を受け思うような生長につながらなかった事も生命の営みを感じる機会となった。またその他の活動では地元の糰店主の協力得て、味噌づくりに取り組んだ。大豆をゆでる火入れから、味噌仕込み、秋の収穫祭までの約4ヶ月間、廊下に置かれた味噌樽を皆でみながらその熟成を待った。味噌開き当日には、遊戯室全体に漂う味噌のにおいに、子どもたちの研ぎ澄まされた感性のつぶやきがたくさん聞かれた。

④ 地域との関わり

地域開放行事としてのかんかん広場は年間9回計画したが、実際には7回の開催（述べ参加者数69名）となった。その他おもちゃ図書館（年6回 延べ38名）、運動会（20名）、マスカレードコンサート（9名）、夏祭り（12名）の行事を地域に開放した。多くの親子は、入園を想定して参加している様子がある。※（）内は地域からの参加者数。

食事介助ボランティア3名が年間を通して定期的に乳幼児の保育に参加した。

職場体験や学習の一環として、多くの小中高専門学校生を受け入れた。その他資格取得の為の学生実習も受け入れ、将来の人材確保と人材育成の場として役割を果たしている。

～全体を通して～

今年度の10月には幼児教育・保育の無償化が始まり、未満児の保育ニーズが高まる中、保育界は大きな転換期を迎えている。画一的な保育から脱却し、子どもを中心に置いた新しい保育の流れを作り、実践を積み重ねるまでには、単年度での到達は当然難しい課題と認識している。保育を動かしていく大前提には、職員間の合意と同意が必要である。多職種・職位やクラスを超えて、保育を語り合える風土づくりに取り組み始めている。それが様々な事柄の追い風になると考えている。

2019年度 蓮の音こども園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 30名

《職員》 園長 主任・児童発達支援管理責任者 主任 保育士・児童指導員
作業療法士 管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

市町村	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
その他	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
実開園日数	21	22	25	26	21	21	24	24	23	22	20	18	267

3. 入退園の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	17
退園理由	保育園等他事業所移行 5名 就学 12名												

4. 通園車走行状況

1号車 (セレナ) 5,294km

2号車 (リバティ) 4/1~5/7 430km ⇒ (ステップワゴン) 5/9~ 4,414km

5. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	入園式 親子遠足	10	合同避難訓練
5	運動会 花まつり 家庭訪問	11	どろんこ祭 上田ライオンズ交流会
6	家族参観 プール活動		七五三
		12	クリスマス会 成道会 防犯訓練
7	七夕 家族参観 防犯訓練	1	ものづくり どんど焼き ももたろう展
8	魂まつり 父親懇親会		家族参観
9	母親懇親会 親子遠足	2	豆まき 涅槃会 家族参観 バイキング給食
		3	ひな祭り 卒園式

避難訓練：毎月（3月は中止）

6. 職員研修等

法人内研修：新任研修・新任フォロー研修・中堅フォロー研修・リーダー研修・接遇研修
介護保険事業所との合同学習会・応用行動分析・虐待防止研修会・メンタルヘルス研修

施設内研修：事例検討会・障害者虐待防止、権利擁護伝達研修・児童虐待研修(宮尾彰氏)
信州上田医療センター発達外来医師清水亜矢子先生、小児科医師島崎英先生
学習会

施設外研修：上小地区心身障害児者施設連絡協議会「代表者会」「主任者会」「児童部会」・地
域自立支援協議会「療育・発達専門部会」・苦情対応システム研修・発達協会
朝日新聞厚生文化事業団「朝日夏季保育大学」・全国児童発達支援協議会・児
童発達支援管理責任者研修・強度行動障害支援者養成研修・上田市子ども子
育て研修会・上田市定住自立圏 保育所職員研修会・上田市作業療法士会

実地研修：「この街きつず学園」「にじいろキッズらいふ」「上田いずみ園」「飯田市こども
発達センターひまわり」「認定こども園かんぎおん」

7. 療育援助結果及び課題

① 発達支援

今年度は園児全体の77.5%が発達障害の確定診断を持ち、未診断5%を含めると82.5%以上が特性に配慮した支援を必要とした。その他の17.5%の中には、医療的ケアの必要な子どもが2名含まれている。療育の指針となる「児童発達支援ガイドライン」の5領域を、より保育的な視点に目を向けて総合的な支援の目標を立案してきた。実践としては、まだ試行錯誤の中で取り組んでいる段階である。集団と個別性を重視した中で「クラス単位」の活動に偏らないよう配慮すると、小集団のグループ活動は周りからの刺激が少なく安心して取り組めるなど、個々の力を引き出す効果的な方法となった。子どもたちができる場面を設定することによって、できた時の心地よさが自尊心と意欲につながる。甘露保育園とともに一体化された環境の利点を活かし、全ての子どもが自然体に関わりあえるような工夫を今後も展開していきたい。

② 家族支援

保護者はそれぞれに違う悩みを抱えている。我が子の発達を願うあまり「できる」「できない」の観点で捉えてしまうと、子どもの思いに共感することが難しくなるため、子どもは甘えられず安心の拠りどころが得られない。また、身近面などで繰り返し積み重ねても獲得できないと、毎日同じことを教えても取り組む意味を見出せなくなる葛藤の時期がある。保護者自身の焦りや先の見通しが持てない不安感は強くなる。愛着形成が基盤となるため子どもの育ちと家族の思いを受け止めながら、保護者自身が子どもとの生活の中で成功体験が得られるよう配慮し、時間をかけて丁寧に寄り添う必要がある。保護者とのコミュニケーションはとても重要であり、心が折れないよう希望を伝え続けたい。

③ 地域生活支援

児童発達支援センターの機能的な理解を推進し、支援を必要としている子どもの療育体験の場となる【のびのび教室】の受け入れや、地域生活への移行の時期等を関係機関と連絡・調整を重ね支援をしている。また、保育所等訪問支援としても地域生活の場面を支援している。当園を研修の場として支援者の資質向上及び、双方の情報交換の場としての役割を果たしてきた。今後も関係機関との連携を深めていきたい。

8. 療育サービス等の利用状況について

① おもちゃ図書館

- ・移動おもちゃ図書館(甘露保育園遊戯室:年7回開催)
⇒ 来館者 334名 ボランティア 51名
- ・青木村図書館への派遣(年2回開催) ⇒ 来館者 52名 ボランティア 14名

② 療育相談 … ST外来相談/5名

③ あそび虫 … 年8回開催 子ども 65名 大人 66名

④ のびのび教室 … 年24回開催(3月は中止) 参加児数 143名

～全体を通して～

【児童発達支援ガイドライン】は、保育所保育指針がベースにあるため、個別支援計画からの実践的な支援を振り返ると、支援内容の工夫が必要であると感じる。集団活動と個別対応の支援の配分については、個々に応じた発達段階の中で主体的な活動ができるよう環境を整えることや、対大人との関係をベースに自分で選んで決める・考える力を身につけていく視点を広げていきたい。今後、クラス運営の中で実践的な計画をさらに深めていく。また、作業療法の場面では専門訓練士からの集団セッションを行った。順番を待つことや相手の気持ちを知り、周り合わせて行動することなどを設定した場面では効果があり、対象児は集中して取り組むことができ、社会的な生活技術を学ぶ機会となった。周りからの刺激の少ない環境下において、見通しが持てることは子どもたちの力が引き出せることから、日常的な場面にもその体験が活かせるよう考慮した支援を提供していきたい。

1. 構成

《職員》 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先

上田市公立保育園（2） 上田市認定こども園（1） 上田市公立幼稚園（1）
 上田市私立幼稚園（1） 東御市公立保育園（1） 計 6ヶ所・6名

3. 支援実施日数及び実施人員 ※3月の訪問支援は中止。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
公立保育園	0	0	0	1	1	2	1	2	2	1	2	0	12
公立幼稚園	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5
認定こども園	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
私立幼稚園	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	4
													<u>計25回</u>

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

今年度は、卒園児のフォロー1名、在園児の兄弟関係1名を含む6名の実施となった。卒園児は、在園中より段階的に交流を重ねることができたことで、早期に保育園側の理解を得ることができた。訪問事業は、母親の精神的な支えになる意味合いもあるが、園全体としての方向性や対象児が安心して過ごせることを目的に、訪問先と保護者の関係構築にも配慮した。好きな遊びや活動を楽しみ、安心を得て友だちと関わろうとする意欲や集団参加に気持ちを向けていく発達過程の中で、保育士と一緒にできた経験の積み重ねが基となる。見通しをもつための視覚支援の方法や声掛けのタイミング、距離感等、場面ごと提案してきた。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

保育現場の環境は様々であり、園独自の方針を尊重しつつ、現状を柔軟に捉えた上で具体的な提案を行う必要があった。対象児以外にも障がい特性による配慮が必要な園児が複数在籍するため、主担任と加配保育士との連携は欠かせない。また、保育士は対象児と個別の関係が多くなり、集団活動に参加するタイミングが難しい場面があった。その場面で直接的な支援を行い、その後のカンファレンスにおいては園全体へのサポートとして発信してきた。訪問前の支援会議により保護者の意向を理解しながら、次回までの課題に対しての取り組みを分かりやすく示すようにした。相談支援専門員による定期的なモニタリングでは、訪問先と関係する機関も同席することで関係者とともに成長を喜び合える場面が見られた。具体的に解決し対象児の成長が感じられるようになると保護者の安心感や理解が得られやすくなる。改めて保護者の訪問への期待感が大きいことを実感した。

③ 専門性の向上と事業の理解啓発

訪問依頼は主に母子保健や行政を通じて寄せられることが多く、困難事例として早急に具体策を求められるケースもあった。特性が強いと支援も個別対応になり、「みんなと一緒に」の視点が強いと、集団との調整に迷う状況があった。まずは思いに共感し、安心・安全を最優先にできる所から焦らず取り組む支援を伝えた。訪問先が見通しを持つようになると改善につながり始めた。対象児やご家族が地域で安心して過ごせるための関係者との連携強化は、今後も地域で暮らす子どもたちの包括的な支援の一部分であると感じる。後方支援として私たちは訪問先の状況を把握し、総合的な支援の提供ができるよう努めていく必要がある。

◎ 考察・まとめ

保育所保育指針が改定されたことで、これまで以上に子どもの主体的な保育のねらいや環境設定が変わりつつある中で、各園の取り組みの違いが見られた。園側の体制も整い特性に配慮した支援が実施できた園では、対象児も保育集団の順応し見通しを持ちながら安心して生活できるようになるが、一方では、対大人との個別性が強くなるケースもあった。全体的な傾向としては、支援を必要としている園児が複数存在することから、その点も踏まえながら個別支援と併せてクラス集団として取り組める支援についても提案した。共通の視点で取り組めることができたことは一定の効果が得られたように思う。終結時、訪問先から引き続き園として支援のバリエーションを深めていきたい意向を聞くと、子どもたちの集団生活がより安定して過ごせることのきっかけになったのではないかと感じる。今後も発達的な視点を持ちながら訪問が安心や心の拠り所となるよう、きめ細やかな配慮で支援を提供していきたい。利用児の進路としては、公立幼稚園から1名蓮の音こども園に移行した。

2019年度 と も い き 宝 池 慈 光 事 業 報 告 書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 26名
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員
 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	21	20	20	20	20	19	20	20	20	21	21	21	243
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	26	25	25	25	25	24	25	25	25	26	26	26	303
延べ人数	430	421	447	484	389	382	465	432	418	403	414	450	5,135
開所日数	24	24	25	26	22	23	25	24	24	23	23	25	288
1日平均	17.9	17.5	17.9	18.6	17.7	16.6	18.6	18.0	17.4	17.5	18.0	18.0	17.8
利用率	90%	88%	90%	93%	89%	83%	93%	90%	87%	88%	90%	90%	89%

3. 入退所の状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	1	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	3
退所	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	3

4. 年間行事実施状況

月	内容
4	宝池親の会総会・お花見外出・上小スポーツ大会・誕生日会
5	花まつり・希望外出・健康診断・誕生日会
6	宝池親の会家族会・誕生日会・ほのぼの市・上田養護学校中等部施設見学
7	誕生日会・上田養護学校PTA見学会・魂まつり
8	夏祭り・誕生日会・集団指導
9	内科検診・誕生日会
10	宝池親の会家族会・希望外出・誕生日会・千曲市民生委員見学・てとてと市 虐待防止研修
11	誕生日会・宝池親の会ひといき交流会
12	忘年会・誕生日会・収穫祭
1	新年会・誕生日会・まゆだま作り・どんど焼き・成人の祝い・メンタルヘルス研修
2	涅槃会・AED講習会・誕生日会・防犯防災研修
3	宝池親の会役員会・慰労会・誕生日会

5. 重点目標の反省

◎ 「個別支援計画に基づき利用者が活躍できる機会と場所の提供」

今年度は事業所内での事例検討会を実施し事業所外よりスーパーバイズを頂きながら取り組めた。事例としては、他の事業所との併用利用されているケースで、家族との連携・他事業所間との連携を密に図り、サビ管同士の相互での訪問を積極的に行うことで、本人への理解をさらに深めることができた。

ご家族には事業所での活動の様子を発信し、それぞれの利用者が活躍できる機会と場所の提供をできるように、研鑽を積んでいきたい。

◎ 「関係機関連携における家族支援の充実」

利用者を取り巻く環境変化への対応はご家族の状況もあわせて待ったなしの状況にある。行政との連携はもちろんのこと、介護サービス事業所の担当者と連携をとることにより、セーフティネットが構築され利用者に必要と思われる適切なサービスへつなげることができた。当事業所では、ご家族の利用者に対する思いの深さには敬服するが、今後においても同様なケースが起きることが推測される。関係機関との密な連携により適切なサービスが提供され、安心して生活ができるように準備と支援を行い、丁寧に対応できるようにしておくことが必要になる。

◎ 「支援記録の充実と効果的な活用」

支援中に見えてくる様々な課題やその経過を視覚的に捉え、職員間で共有・検証し支援プログラムを構築することが根拠のある支援につながる。根拠のある支援を提供することにより、利用者の思いや願いに寄り添える支援をさらに増やしていく。

6. 利用相談

上田養護学校からの利用等に係る相談が多くあった。高等部からは卒業後の進路についての相談。中等部からは事業所の見学依頼や、PTAに対しての見学会の受け入れを実施してきた。当事業所での日中活動の様子をお伝えできる機会を今後も継続し、新規利用者の開拓を進めていきたい。また近年では、他事業所からの移行や併行利用を希望する利用者が増加傾向にあるため、事業所間で丁寧に情報の共有を進めていく。

7. 健康・安全

各種マニュアル（保健・危機管理・要望等解決・虐待防止）の見直しと、感染症予防対策（ノロウイルス・インフルエンザ等）に力を入れた。特に、新型コロナウイルス感染症への対策は事業所単独ではなく、法人内外との連携した対応が必要な事態となっている。今後においても感染予防の啓蒙と備えを強化していかなくてはならない。

8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催の研修会、法人内研修（専門研修・リーダー主任者研修・事例検討会）、事業所内研修（リスク研修・虐待防止研修・苦情対応システム研修・感染症対応研修）へ参加した。また、長野県が主催している「障がい者虐待防止・権利擁護研修」は年1回開催され、現場での伝達研修の実施及び報告が求められており、3回の研修を行い職員間での周知を図った。

2019年度 ともいき宝池和順 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 30名
 《職員》 所 長 サービス管理責任者 リーダー支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上田市	33	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	394
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
坂城町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村											1	1	2
合計	37	36	37	37	37	37	37	37	37	37	38	37	444
延べ数	686	667	719	769	617	668	726	691	691	643	637	704	8,218
開設日数	24	24	25	26	22	23	25	24	24	23	23	25	288

3. 入退所の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
退所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

4. 年間行事実施状況

月	内 容
4	宝池親の会総会、春のお茶会
5	花まつり、希望外出①(ふれあいスポーツ広場)、上小地区障がい者スポーツ大会 各種健康診断
6	宝池親の会家族会、希望外出②(カラオケと外食)、ほのぼの市
7	魂まつり
9	希望外出③(小海リエックスバイキング)、ナイスハート、ふれあい広場
10	てとてと市、秋のお茶会、宝池親の会家族会
11	希望外出④(ボウリングと外食)、新田青年祭、家族会交流会、 上田第三中学校交流
12	利用者忘年会
1	新年のお茶会(初詣)、ボランティア交流会
2	涅槃会
3	年度末慰労会

5. 職員研修

長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会、法人内研修、救急救命研修(AED)
 長野県社会福祉協議会主催各種研修会、上小圏域ケアマネジメント連絡会、事業所内研修

6. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

受託生産	工業用紙袋加工作業	《鈴与マタイ(株)》
	箱折り作業	《丸福(株)、コムパック(株)》
	土産用菓子箱詰め作業	《豊上東山観光(株)》
	ボール洗浄作業(ボールプール用)	《(有)モードテラ》
自主生産	味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売	
	珈琲焙煎作業、クッキー製菓作業(販売・配達)	

② 作業実績

◎収入

受託作業	1,994,350 円
自主生産	13,382,315 円
合計	15,376,665 円

◎支出

作業工賃	6,615,613 円
諸経費	8,761,052 円
合計	15,376,665 円

7. 支援結果及び課題 (『 』内2019年度重点目標)

① 『記録のさらなる充実』

各職員におけるミスヘルパーへのケース記録の入力業務については、確実に業務を遂行できるところまでレベルアップできてきている。しかし、記録の内容となると引き続き課題が残るところがあるため、記録の質を上げていけるようにしたい。毎月第2水曜日に個別支援会議を実施しており、利用者の想いの確認や周知、支援内容の検討会を実施する非常に有効な会議として機能している。

また、記録の時間を確保することが難しいなかで、各職員がお互いに協力し合うことにより均等に時間を作り、確実に提出期限までに入力が完了できるようになった。記録の重要性について全職員の共通理解をさらに深め、今後もミスヘルパーを有効的に活用し、支援の充実を図っていく。

② 『生産活動の可視化と情報共有』

当事業所の作業種は、自主生産作業と受託作業に分かれるが、作業種ごとに役割や日程が利用者に分かりやすくなるよう可視化を進めてきた。その結果として、どの作業種においても見通しを持って行うことができ、利用者の不安感は軽減されてきている。ただ、いくつかの受託業者からは苦情も出てくることもあり、職員が確実に利用者の行った作業において、状態の確認をする事の必要性を感じているため、今後チェック体制を整えていく。

味遊カフェにおいては、作業に参加する利用者の生き甲斐になっておりコーヒーの淹れ方の研究等、お客様により良いものを提供できるよう工夫している姿がある。コーヒー豆の選別作業やカフェ店内の掃除、POP作り作業のように作業内容が多岐にわたるため、関わることで利用できる利用者が増えてきている。今後もより多くの利用者が関わられるように作業内容を増やしていきたい。また、衛生面においても利用者の意識が統一できるよう丁寧に説明しながら、さらに意識を高めていく必要がある。

気まぐれ屋新田での活動においても、個別的な支援の必要な利用者や比較的障がいの重い利用者も参加することができており地域との貴重なつながりの場となっている。気まぐれ屋での支援を提供することにより日常生活に良い変化が生じた利用者も見られた。

③ 『生活支援活動の充実、家族と地域との連携』

新田地区における文化祭や公民館まつり、長野県知的障がい福祉協会は主催する福祉大会に利用者の作品の展示や販売を行い地域の方に見ていただく機会が増えている。さらに味遊カフェでのギャラリーやととと市の開催によって、より深く地域との交流ができ利用者の皆さんには励みになっている。また、各行事等へのご家族の参加も増えてきており、喜んでいただく回数も増えてきている。

④ 『法令遵守と守秘義務の堅持』

法人で作成した「法令遵守マニュアル」に基づいた研修を受けたり、第三者評価を受審したことにより、職員の間でもより理解を深めることができた。加えて法令遵守に対する意識も高まってきている。今後もさらなる学習が必要になり、日々の業務の中で意識の積み重ねが重要になる。守秘義務においても各職員の意識づけが必要であり、日々の精進が改めて重要だと認識した。

8. リスク・健康・安全管理

利用者の日々の通所経路については、安全に事業所に通えるよう支援に取り組んだ。また、必要に応じて同行支援を実施している。

豪雨や台風等の気象情報等を的確に入手し、適切な対応とご家族の協力をいただきながら、より安全な通所支援、事業所運営に心掛けている。

感染症対策及び見直しにより、徹底的な予防の推進を進めてきた。

各種健康診断を実施し、その結果を受けてご家族に受診をすすめるようにした。

9. その他

地域に開かれた事業所をめざし、新規利用者の開拓の促進を実施していく。また、各機関との連携も積極的に行いニーズの必要性にもアンテナを高くしていく。

2019年度 ともいきライフ 月影 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 60 名
 (施設入所支援) 定員 50 名
 (短期入所) 定員 6 名

《職員》 管理者 主査 サービス管理責任者 リーダー 支援員
 准看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	22	22	21	22	22	22	22	22	22	22	23	23	265
東御市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
長野市	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
須坂市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
飯山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
坂城町	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
小諸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
諏訪市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
原村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
松本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小谷村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
木島平村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	67	67	66	67	67	67	67	67	66	66	67	67	801
延べ数 (生活介護)	1,347	1,374	1,344	1,396	1,335	1,326	1,397	1,329	1,359	1,357	1,261	1,348	16,173
延べ数 (施設入所支援)	1,481	1,535	1,470	1,521	1,492	1,483	1,548	1,479	1,474	1,450	1,420	1,477	17,830

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
退所	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	50	43	42	37	49	56	34	38	34	64	77	45	569
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	50	43	42	37	49	56	34	38	34	64	77	45	569

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業、小牧山霊園清掃作業
 その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸、調理訓練等

6. 年間行事実施状況

- 4月・・・村上保育園入園式、村上小学校入学式、坂城幼稚園入園式、グループお花見、月礼会
- 5月・・・坂城町こどもフェスティバル、グループ食事会、ハローアニマル交流
坂城町手をつなぐ育成会総会、訪問リハビリ
- 6月・・・グループお花見会、グループ外出、上平区敬老会、村上小学校運動会、月礼会
村上保育園交流会、村上小学校交流会、長野地区障がい者スポーツ大会
- 7月・・・家族部会宿泊研修会、グループ外出、訪問リハビリ、ジョブマッチングフェア
村上小学校交流会、夕涼み会、内科検診、歯科検診、魂まつり
- 8月・・・坂城どんどん、月礼会、家族部会、通所部会、県集団指導、所内事例検討会
- 9月・・・第三者評価説明会、部会日帰り旅行、坂城町民生委員施設訪問と交流会、月礼会
村上小学校交流会、上平区総合防災訓練、千曲坂城地域自立支援協議会全体会
- 10月・・・月礼会、お楽しみ会、北信地区レクリエーション、介護保険施設との合同研修
第三者評価面談（利用者・職員）
- 11月・・・村上小学校音楽会、上平区きのこと祭り、村上保育園交流会、ぽっぽ展
知福協福祉大会（松本）、訪問リハビリ、月礼会
- 12月・・・坂城町町民大会、忘年会、家族部会、北信支部代表者会、北信地区レクリエーション
- 1月・・・上平区総会、内科検診、グループ食事会、ハローアニマル交流、法人事例発表会
- 2月・・・公用車安全祈願、利用者自治会選挙、訪問リハビリ、涅槃会
- 3月・・・新型コロナウイルス感染症により各種イベントの中止若しくは縮小となる。
村上小学校卒業式（縮小）、村上保育園卒園式（縮小）、坂城幼稚園卒園式（縮小）

7. 職員研修

- 法人外研修（自閉症セミナー、支援スタッフ部会、障がい者施設支援部会、施設長研修会
保健部会、食事支援部会）
- 法人内研修（専門研修、初任者研修、中堅職員研修、リーダー主任研修、施設内研修等）
- 施設内研修（リスク研修、虐待防止伝達研修、苦情システム対応研修、メンタルヘルス研修）
（千曲坂城地域自立支援協議会、運営委員会、事業所連絡会、各専門部会）

8. 支援結果及び課題（『 』内、2019年度重点目標）

◎『利用者の意思決定の確立』

毎月開催しているグループ会議の中で利用者さんの思いや願いを個別に議論し、全体会を通して周知し、常に安全に配慮しながらチームアプローチでの支援を心がけてきた。日々の活動においては、本人の思いに寄り添うこと、自ら選択できる機会を提供することを意識しながら、適切な声かけ等の支援方法を実践することを意識した支援への展開に繋がってきている。また、創作活動では、利用者さんが日々の活動の中で作り上げた作品を様々な方に見てもらえるよう職員も工夫し、作品展（ぽっぽ展）等で発表することができた。反面、農作業や園芸作業などは十分に機会を確保することができず、次年度への課題として検討していきたい。

◎『個別支援計画書の充実』

昨年度同様に、サービス等利用計画における相談支援専門員との連携を図ることにより、利用計画または、モニタリングからの連携をさらに意識できるようになった。また、行動に障がいのある利用者さんへのアプローチとして、根拠のある支援となるよう日々の記録の充実（行動分析）を図り、記録システム（ミスヘルパー）を有効活用して、必要に応じて各専門職（看護師、栄養士等）を交えた話し合いを行い、支援を組み立てるサイクル（PDCA）も定着してきている。

◎『ご家族への支援及び関係性の維持』

従来と同様に、年3回の部会活動、年4回の月礼会（環境整備）、年3回の月影通信発行、年3回の連絡票送付（事業所での様子等を報告）、年2回の個別支援書送付、年1回の宿泊研修、年1回の日帰り旅行（親子で参加できる方のみ）を実施。また、これらの定期的な活動の他に、面会や夕涼み会を通して、家族との触れ合いの機会を提供している。また、ご家族の高齢化や帰省が難しい方など、個々に応じた帰省方法（日中に家族と過ごせる外出支援）や相談を今年度も実施してきた。次年度以降もご家族との関係性の維持に努めていきたい。

2019年度 と も い き ラ イ フ 住 吉 事 業 報 告 書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 30 名
 (施設入所支援) 定員 30 名
 (短期入所) 定員 4 名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師
 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	23	23	23	23	23	24	23	23	23	23	23	23	277
東御市	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
安曇野市	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
佐久穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辰野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	31	31	31	31	30	31	30	30	30	30	30	30	365
延べ数 (生活介護)	638	652	624	651	618	650	662	634	660	641	605	651	7,686
延べ数 (施設入所支援)	874	877	860	888	841	883	923	891	892	871	861	895	10,556

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
退所	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	2
	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	1	3

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人員）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	48	44	33	60	52	42	64	49	31	27	51	44	545
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	48	44	33	60	52	42	64	49	31	27	51	44	545

5. 実施した作業支援種目

作業・・・園芸作業、椎茸作業、農作業

その他・・・リハビリ支援、歩行支援、高齢者グループ支援、食事作り、おやつ作り、
 足浴支援、地域交流活動

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・初任者フォロー研修・リーダー職員研修・接遇研修

施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・虐待防止研修会

施設外研修（長野県知障協主催各種研修会・県及び社協主催各種研修会・その他）

『知障協』精神科領域実践支援セミナー・自閉症支援セミナー

『その他』長野県障がい者虐待防止権利擁護研修・防犯対策研修会

7. 年間行事実施状況

月	内 容
4	住吉家族部会研修会・グループ花見外出
5	伊勢山自治会ふれあい会食会・甘露保育園芋植え交流会・住吉家族部会環境整備 神科地区社会福祉協議会総会・神科小職員交流会・心電図・内科検診・眼科検診
6	ほのぼの市・岩門ふれあい会研修会・神科小PTA交流会・宝池親の会家族会・歯科検診
7	豊殿小4年生交流・婦人科検診・乳房検診・神科地区防犯・防災協議会
8	夏祭り・住吉家族部会・伊勢山長寿会日帰り旅行・伊勢山ふれあいすいとん会・防災設備点検
9	神科地区社会福祉協議会住民大会・伊勢山地区敬老会・神科小3年生交流 住吉家族部会環境整備・住吉まつり(所内のみでの開催)
10	宝池親の会家族会・小諸厚生病院祭・千曲荘病院祭・高齢者文化祭・上田市環境フェア 甘露保育園芋掘り交流・神科小まつり・豊殿小学校3年生交流
11	総合防災訓練・住吉家族会研修会・神科小交流会
12	ともいきライブ住吉忘年会・住吉家族部会
1	繭玉づくり・どんど焼き
2	
3	住吉家族部会総会

：月単位行事 避難訓練・誕生日会・体重血圧測定・茶道・個別外出支援・その他

8. 支援結果及び課題（『 』内、2019年度重点目標）

◎『生活介護事業及び施設入所支援事業の充実』

施設入所利用者の年齢は19歳から83歳と幅広い年齢層で平均年齢が56.9歳となっている。障害支援区分の平均については5.13となっている。利用者支援だけではなく医療機関との連携が不可欠であり、高齢者支援の充実のために介護技術・知識の向上とともに安心・安全に生活できる場の提供しつつ、移行が検討される場合として高齢者施設との連携も視野に入れておく必要が出ている。また同時に行動障がい併せ持った利用者との共生も課題として残り、全利用者が安心・安全に過ごせるよう必要な環境設定・配慮を整えていきたい。

日中活動では「生産活動」や「創作活動」を中心に、園芸や椎茸などの作業や歩行・リハビリ・食事やおやつ作りなどの活動で満足感が得られるように支援を提供してきた。今後も一人ひとりが役割を担い達成感・満足感を感じられるよう支援を進めていきたい。

◎『個別支援計画書の内容の充実および計画の実行・評価』

相談支援専門員との連携を図りながら、サービス等利用計画を基に個別支援計画の作成・実行に努めている。利用者の思いの実現に向けて検討会議を積み重ねながら支援の方向性がずれないように今後も進めていきたい。それに伴い記録の充実は欠かせないため支援と記録が両立できるように職員に働きかけながら支援の質の向上へとつなげていきたい。

◎『家族への支援』

利用者の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化や保護者の代替わり（兄弟または甥・姪など）の実状は変わらない。家族部会等への参加も年々少なくなり、参加者されるご家族が固定されてしまっている。ご家族との連携が薄くなりがちであるが、関係性を保つていくため関わりは継続していきたい。利用者個々の将来の展望についてもご家族の意向を確認しておくことで利用者にとってより良い生活環境を保ち安心・安全へとつなげていきたい。また、ご家族（親）自身の状態の変化に伴い、生活が不安定になりうるケースが出てきている。そのため利用者だけでなく、ご家族への支援・サポートも今後さらに重要になってきているため、関係機関との連携を図りたい。

◎『研修（事業所内外）と自己評価・第三者評価への取り組みを図る』

研修に参加させていただくことで職員個々の知識レベルは確実に向上している。チームとして取り組む意識づけを図りながら伝達研修などの機会を設けさらなるチーム力の向上につなげたい。また、次年度は第三者評価の受審を予定している。今年度受審した事業所から情報を得るとともに受審する意味合いを認識しながら第三者評価受審を事業所のサービス向上につなげていきたい。

2019年度 上田市母子寮 事業報告書

1. 施設の構成 定員20世帯

《職員》 施設長 主査 主任 母子支援員 少年指導員 個別対応職員 心理担当職員

2. 地区別初日在籍世帯数（上段） 及び人員（下段）

地区\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	世帯	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	44
	人数	9	9	11	10	10	10	10	10	10	10	8	8	115
その他	世帯	9	9	9	9	10	10	11	13	13	12	12	11	128
	人数	24	24	24	24	26	26	28	33	33	28	29	27	326
計	世帯	12	12	13	13	14	14	15	17	17	16	15	14	172
	人数	33	33	35	34	36	36	38	43	43	38	37	35	441

その他内訳

福事 務 社所	世帯	安曇野市	36	東御市	12	長野市	17	茅野市	16	飯田市	2
	人数	108	24	39	32	6					
		北安曇	8	諏訪	5	甲府市	9	藤岡市	12	栃木市	11
		16	10	45	24	22					

3. 入退所世帯の状況（月途中の入退所あり）

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入 所	世帯	2	0	1	0	1	1	0	2	0	1	0	0	8
退 所	世帯	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	6

4. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	子ども会(お花見)	10	親子遠足・子どもの料理教室
5		11	子ども会(歓迎お抹茶会)
6	料理教室	12	餅つき年末お楽しみ会・小笠原さんお茶会
7	夏休み子ども会活動・子どもの料理教室	1	子ども会(まゆ玉作り・どんど焼き・正月遊び)
8	夏祭り親睦会	2	節分豆まき・ひなまつりお楽しみ会
9	子ども会(歓迎会食会)	3	進級お祝い会(昼食及びプレゼント配布のみ)

避難訓練は、想定を変えて毎月実施。消防署員による実施指導(日曜日・年1回)

消防署への通報訓練(年2回)

その他の行事(運営委員会活動会議…年2回、子ども会会議…年2回 等)

5. 職員研修

(法人内研修会)

- ・応用行動分析研修会 2回
- ・事例検討会 7回
- ・新任職員フォロー研修 2回
- ・接遇研修 2回
- ・リスク虐待防止研修会 2回
- ・中堅職員フォロー研修 1回
- ・チームリーダー研修 1回
- ・メンタルヘルス研修 1回
- ・児童虐待防止研修会 1回
- ・言語聴覚士による研修会 1回

(法人外部研修会)

- ・長野県母子生活支援施設連盟研修会
- ・第59回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会
- ・児童福祉施設等研修会
- ・令和元年度感染症食中毒等の発生及びまん延防止に係る研修会
- ・女性相談担当者支援研修
- ・令和元年度苦情対応システム研修会
- ・児童虐待・DV防止講習会
- ・令和元年度社会福祉施設等の防火防災対策に係る研修会
- ・雇用保険適用事務講習会
- ・令和元年度上小地域虐待防止・虐待被害者支援ネットワーク会議

6. 施設設備

- ・ 1階メイン管高圧洗浄による生垣処理

7. 援助結果 ～重点目標の結果及び課題～

○今年度は一時保護・緊急避難1世帯（同一世帯のもの）を含む利用世帯20世帯52人の方への支援を実施し、そのうちDV被害者は15世帯39人（75%）、経済的理由他は5世帯13人（25%）であった。

- ① 入所されている方は主にDV被害世帯が多く、特に相手からの追跡等の危険性から身心を患ってしまい入所される方が多かった。また、今年度は、精神科病院（千曲荘病院・安藤病院等）や内分泌科の病院（バセドウ病で信州上田医療センター）、或いは糖尿病、高血圧症を発症している利用者や眼底出血、虫歯等の治療を放置されていた利用者が多く見られた。改めて相手による監視・制限を受けている生活の中で葛藤されていたことを痛感した1年だった。
- ② 家族の再構築を目指し、精神的自立・社会的自立・経済的自立が整い地域へ自立をされた。利用者が、元夫への思いが強く、自ら連絡を入れ、年末から同居をされてしまった。また、入所後の生活態度等から母親に対しての知能検査を実施し、障害者手帳及び障害年金を取得された利用者が2名いらした。今後も入所される方は何らかの障がい等を抱えた方が増えていくことが予想される。
- ③ 発達障がいを抱えた子どもたち（知的障がい・自閉症スペクトラム症）の8名に対しては、学校や児童相談所等を含む関係機関との支援会議が再三実施された。また、要保護児童対策地域協議会の対象児もいた。主催は自治体となり、参加者は教育関係機関・児童相談所・警察署・自治体の障害係・教育事務所等と多岐にわたるものであった。
- ④ 退所後も地域社会での営みを見守り、必要とされる支援を行ってきたが、子育ての辛さや、一人で子育てをすることへの疲れなど子どもが年齢を重ねていくことで子育ての悩みが変化していき、その変化について行くことができず相談に見えるケースが多かった。今後も同様に増加していくと思われる。
- ⑤ 周産期の妊婦を積極的に受け入れることを目標とし、平成31年2月に単身の妊婦であった20代前半の方を受け入れ、支援させていただいてきた。支援内容としては、出産時の付添い、退院後の子育て支援（沐浴・授乳の仕方・離乳食の作り方・通院時の同行等）に全職員が関わり見守ってきた。その子は令和2年3月31日で満1歳になり、4月から保育所の利用を開始した。若年の母親についても就労を開始された。

【資料】

(退所6世帯の状況)		(緊急一時受け入れの状況)		(新規入所 8世帯の状況)	
民間アパートの確保	3世帯	DVによるもの	1世帯	DVによるもの	6世帯
公営住宅の確保	1世帯	実利用者人数	3人	経済的によるもの	1世帯
母子分離 (民間アパート)	2世帯	実利用日数	9日	その他	1世帯
		延利用人数	27人		

(別紙)

2019年度 上田市母子寮 心理療法実績報告書

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法													
個別療法	8	8	10	6	5	4	7	5	5	2	5	3	68
SST (個別、グループ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	5
(小計)	8	8	10	6	5	4	7	5	5	6	6	3	73
生活場面面接	6	5	3	10	3	8	5	6	8	3	6	16	79
心理検査	0	6	0	1	0	1	4	0	1	1	0	0	14
施設職員等 への助言	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	47
処遇検討会議 への出席	1	0	0	1	1	0	2	2	1	1	0	1	10
その他 学習支援・集団活動	1	0	1	1	0	0	0	16	9	5	6	2	41
(合計)	20	23	18	23	13	17	22	33	28	20	21	26	264
他機関への紹介 情報提供	2	2	1	1	0	2	2	1	0	0	0	0	11

① 心理療法

今年度は比較的コンスタントに継続できたケースと中断したケースに二分される。中断したケースは、ドロップアウトというよりは、マッチングの問題であり必ずしも否定的に捉える必要のないものであった。

② 心理検査

必要に応じで実施した。発達検査については保護者からの要望であり、その他の検査については実施者の判断で行った。

③ 学習支援

支援の必要とされる夕方の時間帯において不在となってしまうことが多くあり、ニーズに応じきれなかった。

④ 集団活動

今年度は実施しなかった。

⑤ カフェ

令和2年1月までは月に1回程度実施してきた。実施日が休日であるため、利用される人数はその日の利用者さんの動きに左右されるが、切れ目なく来室される日もあった。気軽に利用していただける利点がある。2月から3月については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から休止とした。

⑥ 情報提供

医療機関や学校等の関係する機関へは、情報提供をしてきた。また、公認心理師法に基づき、主治医のある対象者については、本人より同意を得てその主治医に情報提供を行った。

<総括>

日常生活における心理的支援はコンスタントに提供できることが非常に重要である。その点において、実施できたケースもあったができなかったケースもあった。

1. 事業所の構成

- ◎新田ホーム (定員 3名) 利用者男性 3名 (上田市 2名 千曲市 1名)
 ◎和ホーム (定員 3名) 利用者女性 3名 (上田市 2名 千曲市 1名)
 《職員》 ホーム長 サービス管理責任者 生活支援員 世話人

2. 利用の状況

昨年度に引き続き今年度についても入退所となる利用者がいなかったため、年間を通して定員6名に対して実員6名での推移となった。男性利用者については、平均年齢は47歳で、平均障害支援区分は3.3であった。女性利用者については、平均年齢は66.7歳で、平均障害支援区分は4.0であった。20代の利用者もいるが高齢化が進んできており、以前のように実家に帰省できる利用者は減ってきている現状にある。

3. 生活費用 (毎月の一人名当たりの負担額)

	新田ホーム	和ホーム	備考
生活費	35,000円	35,000円	食費・光熱水費等
家賃	10,000円	13,750円	旧定員割(4名)

4. 利用者の傾向

当法人のグループホームは閑静な住宅地に位置している。交通等のアクセスの良い環境にあり、大型のショッピングセンターが近くにあるため交通量も多い。視覚障がいのある利用者も2名生活しているため、外出時の転倒や交通事故に遭わないように安全配慮を必要としている。ホームで生活されている利用者は、6名中5名の方が法人内の日中事業所を利用されているが、身体機能の低下や認知機能の低下など高齢化に伴う課題に対応していくには各事業所とホームの連携をさらに深めていかなくてはならない。法人内の事業所を利用していない若い利用者は市内の会社へ勤務しているが自転車を使用しているが、自転車損害賠償保険の加入が義務化されたことに伴い加入手続きを行った。また、新田ホームが移転することに伴い、新しい生活環境において様々な影響が出てくるのが考えられる。利用者の状況を把握するとともに、地域との関係性を良好にすることを大切にしたい。

5. 支援結果及び課題 (重点目標の反省)

『グループホームが心安らぐ場所であるよう、人間関係の調整に力を注ぐ』

本人主体の地域生活を「暮らし」という視点で捉えると、グループホームは利用者にとって地域との関わりを多く持つ非常に重要な生活拠点である。買い物等の外出の機会では、職員が必要に応じて配慮をしていくが比較的自由に外出していただいている。障がいの程度により職員のサポートが必要な利用者についても買い物等を楽しめるよう支援を実践している。また、1つの拠点に3名という小集団であることの悩みも多いことは事実である。利用者同士の人間関係の調整は悩みが尽きない。他人を思いやる気持ちを持つことの大切さを伝えてもその思いを共有することは難しい。世話人や各事業所の職員と課題の共有することにより、できるだけ目配り・気配りをして関係性の改善を心がけたい。

『健康推進のため、介護予防等の考え方を取り入れ支援に活かしていく』

健康チェックを毎日欠かすことなく実施し、異常が見られれば医療機関につなげることをスピード感を持って対応してきた。65歳を超える利用者が3名生活されており、日常的な健康観察を重視しつつ、利用者の主訴を傾聴し、チームワークで対応していけるように引き続き努力していきたい。食生活の場面においては、過食防止に配慮しながら家庭的で、バランスの良い温かい料理の提供を継続してきた。時には、外食や屋外での食事をとれる機会を提供し、生活に張りとは変化を持たせるようにもしてきた。今後も、利用者の思いを確認しながら対応していきたい。

『地域とのふれあいによる生活の充実感を得るために、行事（お花見会・忘年会・青年会）等の地域参加をより前進させていく』

「地域参加」については自治会の行事への参加を主として行ってきた。地域の方達も好意的に迎え入れていただき、利用者も喜んで参加することができた。地域の清掃活動も世話人と利用者が一緒に参加することにより、地域の一員である認識も高めることができたように思う。利用者さん自らがホームや地域の環境整備をされている姿を見かけることもあり、その気持ちを感謝とともに見守っていきたい。

6. 職員の研修

上小地域障がい者施設等連絡協議会主催の「グループホーム担当者会」の研修会に参加し、世話人同士の情報交換や支援のポイント確認等を話し合いに参加した。また、長野県が毎年開催している「障がい者権利擁護・虐待防止研修会」代表者が参加し、伝達研修を行った。

7. 施設整備

グループホームでの火災は、大惨事となってしまう事故も全国では数多く発生しており、和ホームには設置の基準にあわせてスプリンクラーの設置をしている。日頃の避難訓練でできないことは有事の際でもできることはないので、防災意識を高められるように避難訓練等を引き続き実施していきたい。

新田ホームについては、今まで使用していた建物の老朽化が顕著であったこともあり、近隣の新しい建物に転居することとなった。今後も、生活環境に応じて必要とされる修繕等を行ってしていきたい。

8. 今後の展望

利用者の気持ちに寄り添うことが基本であり一番大切なことであるので、様々な研修を重ね利用者の障がい特性をしっかりと理解した上で、支援の質の向上に努めていきたい。利用者同士の関係性は今後においても難しいことが予想されるが、問題に対してどう折り合いをつけるかを、お互いの意見を傾聴しながら考えるようにしていきたい。感染症対策という観点では、予防の実践と備蓄をキーワードに対応していきたい。

1. 施設の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任兼相談支援専門員 相談支援専門員

2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

【指定障害児・指定特定相談支援事業】

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施総件数	35	26	57	40	20	70	57	30	45	40	24	102	546
モニタリング・者	10	15	21	30	14	26	31	16	32	35	21	26	277
モニタリング・児	14	4	19	2	0	32	18	2	6	2	1	17	117
モニタリング計	24	19	40	32	14	58	49	18	38	37	22	43	394
計画作成・者	9	7	14	7	5	10	7	12	7	3	2	13	96
計画作成・児	2	0	3	1	1	2	1	0	0	0	0	46	56
計画作成計	11	7	17	8	6	12	8	12	7	3	2	59	152

引き続き計画の更新、モニタリングが主な業務である。児童の新規契約の方は蓮の音こども園の入園児、保育所等訪問支援利用児であった。成人の新規契約については2名であり、1名は他事業所からの移行、もう1名は障がい福祉サービスを初めて利用する方であった。

3. タイムケア事業実施状況

【タイムケア事業実績】

タイムケア登録者 16名

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
30年度(人数)	2	3	3	2	2	3	3	2	5	3	6	3	37
1年度(人数)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	5	4	40
比較(1-30)	1	0	0	1	1	0	0	1	-2	1	-1	1	3

タイムケア事業に関しては、昨年度は延べ37名が利用し124.5時間の利用であったのに対し、今年度は延べ40名が利用し188.5時間の利用であった。

4. 相談支援の継続実施

今年度は、成人の方が153名、児童の方が69名(蓮の音こども園39名、保育所等訪問支援6名、稲荷山医療福祉センター3名、放課後等デイサービス9名、来年度蓮の音こども園入園児12名)の計画更新及びモニタリングを受持っている。定期的な相談支援の実施状況は、上記の表のとおりとなっている。

定期的なモニタリング、計画更新以外の相談の対応としては、利用者本人の高齢化等によるニーズの変化から、介護保険事業所へのサービス内容の変更、保育所等訪問支援事業の利用開始希望などがあった。今後は、現在当法人の障害福祉サービスを利用されている方の高齢化に伴う施設移行等の計画相談が増えていくことが予想されるため、より利用されている事業所との連携を密にして利用者本人の希望に添えるような計画を作成していきたい。

モニタリングの実施時期については、個別に異なるが、次年度もさらなるきめ細やかな実施に心がけたい。

今年度、相談支援専門員が4名の体制となり、一人あたりの相談員の受け持つ件数が多くなった。そのため、外部の相談支援事業所に引き渡しの依頼を行ったが、どの相談支援事業所も人員体制にひっ迫しており、難しい現状にある。また、撤退をする相談支援事業所は一時期に比べれば落ち着いてきたように感じられるが、今後も厳しい状況は変わらないため大きな課題となっている。

5. 計画内容の質の確保

特定相談支援では、既利用者に対する計画の更新、モニタリングが主業務となっている。業務を進めるにあたっては、サービス担当者会議（ケア会議）、関係者会議、事業所訪問などの実施が重要となる。現在、複数の事業所を利用されている方が増えてきており、ケア会議等を開催することにより丁寧な相談支援を継続している。引き続き、利用者さん、ご家族の生活の質向上に寄与していくことが課題となっている。

障害児相談支援においては、蓮の音こども園を利用している児童が主である。利用者さんご本人、ご家族からは相談支援の実施については、支援のひとつとして定着してきており、生活を振り返るにあたっての重要な機会ともなっている。また、市外等の遠方の方のモニタリングについても、ケア会議の実施が定着してきたことにより、市内同様に丁寧な支援が提供できるようになってきた。

次年度についても、アセスメントの方法やモニタリングの設定、利用者の同意についても、より誠実な対応が求められてきている。今後も適切な実施に努めたい。

相談支援業務を実施するにあたって、各サービス提供事業所が作成している個別支援計画との連動が引き続き課題となっている。対象となる各事業所より適切に情報を提供していただきながら個別支援計画とリンクした相談支援実施に努めたい。

6. 地域との連携

地域共生社会の実現を考えようとの動きが強い今日、「我が事・丸ごと」の理念、すなわち地域福祉力強化の道筋に対して、相談支援事業所としても各種関係機関との連携はもとより、利用者を中心とした「支えるネットワーク」の構築を図ってきた。計画相談を通して、地域での多様な主体との強固な信頼関係の構築を目標に、誠実な支援の実施、継続に努めてきた。今後も引続き連携体制を強化させていきたい。

7. 記録の管理

記録については、サービス管理責任者等を中心に法人全体で積極的に取り組んでおり、確実に整備が進んでいる。今後も相談支援の制度及び報酬の算定方法の変化において必要とされている記録を残しておくことを意識していかなくてはならない。そのために、より効率的な記録方法についての検討も必要になってくる。

8. 法令遵守と守秘義務の堅持

日々の業務にあたり、常に意識して対応していくことと、学習の継続が必要と考えている。

相談支援の実施にあたり、家庭訪問・モニタリング頻度など通知等を確認しながら市町村と協議のうえ、より適切な支援をめざし、見直しをしている。

9. 職員研修

- ①法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決委員会
相談支援研修（高齢者事業所との合同研修会の企画、実施） 等
- ②法人外研修：上小圏域ケアマネジメント連絡会、県知障協相談支援部会 等
- ③自主研修：各種講演会や見学会 等